

Power Systems

**コントロール・パネル機能の
管理**

IBM

Power Systems

**コントロール・パネル機能の
管理**

IBM

— お願い —

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、v ページの『安全上の注意』、25 ページの『特記事項』、「*IBM Systems Safety Notices*」(G229-9054)、および「*IBM Environmental Notices and User Guide*」(Z125-5823)に記載されている情報をお読みください。

本製品およびオプションに電源コード・セットが付属する場合は、それぞれ専用のものになっていますので他の電気機器には使用しないでください。

本書は、POWER8 プロセッサを搭載した IBM Power Systems サーバーおよびすべての関連モデルに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： Power Systems
Managing the control panel functions

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2014.

目次

安全上の注意	v
コントロール・パネル機能の管理	1
コントロール・パネル機能の管理の最新情報	1
コントロール・パネルの概念	1
物理コントロール・パネル	1
物理コントロール・パネルを使用したコントロール・パネル機能へのアクセス	3
物理コントロール・パネルを手動操作モードにする	3
コントロール・パネル機能コード	3
基本コントロール・パネル機能	6
機能 01: 選択した IPL タイプ、およびシステム操作モードの表示	6
機能 02: IPL タイプ、システム操作モード、およびファームウェア・モードの選択	7
機能 03: IPL の再始動	10
機能 04: ランプ・テスト	10
機能 05 から 06: 予約済み	10
機能 07: SPCN 機能	10
機能 08: 高速電源オフ	12
機能 09 から 10: 予約済み	12
機能 11: SRC 表示 (ASCII 文字列)	12
機能 12: SRC 表示 (16 進ワード 2 - 5)	12
機能 13: SRC 表示 (16 進ワード 6 - 9)	13
機能 14 から 19: SRC 表示 (コールアウト)	13
機能 20: システム・タイプ、モデル、フィーチャー・コード、および IPL タイプ	14
お客様拡張のパネル機能	14
機能 21: サービス・ツールの開始	14
機能 22: 区画ダンプ	15
機能 23 から 24: 予約済み	15
機能 25 - 26: サービス・スイッチ 1 および 2	15
機能 27 から 29: 予約済み	15
機能 30: サービス・プロセッサの IP アドレスおよびポートの場所	15
機能 31 から 33: 予約済み	16
機能 34: 区画ダンプの再試行	16
機能 35 から 40: 予約済み	16
機能 41: 非中断プラットフォーム・システム・ダンプ	16
機能 42: プラットフォーム・システム・ダンプ	17
機能 43: サービス・プロセッサ・ダンプ	17
機能 44 から 54: 予約済み	18
機能 55: プラットフォーム・システム・ダンプ・データの表示および変更	18
機能 56 から 62: 予約済み	19
機能 63: システム状況 SRC の表示	19
機能 64: 診断状況 SRC の表示	20
機能 65: リモート・サービスの非活動化	21
機能 66: リモート・サービスの活動化	21
機能 67: ディスク装置 IOP のリセット/再ロード	21
機能 68: 並行保守 - 電源オフ	21
機能 69: 並行保守 - 電源オン	21
機能 70: IOP ダンプ	21
機能 71: ネットワーク・ブートの活動化	21
機能 72: ネットワーク・ブートの無効化	22
機能 73: 出荷時リセット	22

機能 74 から 99: 予約済み	22
IPL タイプおよびシステム操作モードの値	23
Flexible Service Processor (FSP) のブート失敗サポート	23
特記事項	25
プライバシー・ポリシーに関する考慮事項	27
商標	27
電波障害規制特記事項	27
VCCI クラス A 情報技術装置	27
VCCI クラス B 情報技術装置	31
使用条件	34

安全上の注意

安全上の注意は、このガイド全体を通じて記載されています。

- **危険**の注記は、人間に致命的または極めて危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- **注意**の注記は、何らかの状況が原因の、人間に危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- **重要**の注記は、プログラム、装置、システム、あるいはデータに損傷を与える可能性があることを示します。

ワールド・トレードの安全上の注意

国によっては、製品資料に記載される安全上の注意を自国語で提示するよう要求しています。この要求がお客様の国に適用される場合は、製品に付属の資料パッケージ (印刷された資料または DVD で、あるいは製品の一部として) に安全上の注意についての文書が含まれます。この文書には、英語原典に準拠した、各国語による安全上の注意が記載されています。この製品の取り付け、操作、または保守のために英語の資料をご使用になる場合は、まず、関連している安全上の注意についての文書をよくお読みください。また、英語版資料の安全上の注意が明確に理解できない場合も、必ずこの文書を参照してください。

安全上の注意についての文書の差し替え版または追加のコピーについては、IBM ホットライン (1-800-300-8751) に連絡して入手することができます。

レーザーに関する安全上の注意

IBM® サーバーは、レーザーまたは LED を使用する、光ファイバー・ベースの I/O カードまたはフィチャーを使用することができます。

レーザーに関する準拠

IBM サーバーは、IT 装置ラックの内部または外部に取り付けることができます。

危険

システムまたはその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

電源ケーブルや電話線、通信ケーブルからの電圧および電流は危険です。感電を防ぐために次の事項を守ってください。

- 電源と装置を接続する場合は、必ず IBM 提供の電源コードを使用してください。IBM 提供の電源コードを他の製品に使用しないでください。
- 電源装置アセンブリーを開いたり、保守しないでください。
- 雷雨の間はケーブルの接続や切り離し、または本製品の設置、保守、再構成を行わないでください。
- この製品は複数の電源コードを備えていることがあります。危険な電圧をすべて除去するには、すべての電源コードを取り外してください。
- すべての電源コードは正しく配線され接地されたコンセントに接続してください。コンセントがシステム定格プレートに従った正しい電圧および相回転を供給していることを確認してください。
- ご使用の製品に接続するすべての装置を、正しく配線されたコンセントに接続してください。
- シグナル・ケーブルの接続または切り離しは可能なかぎり片手で行ってください。
- 火災、水害、または建物に構造的損傷の形跡が見られる場合は、どの装置の電源もオンにしないでください。
- 取り付けおよび構成手順で特別に指示されている場合を除いて、装置のカバーを開く場合はその前に、必ず、接続されている電源コード、通信システム、ネットワーク、およびモデムを切り離してください。
- ご使用の製品または接続されたデバイスの取り付け、移動、またはカバーの取り外しを行う場合には、次の手順に従ってケーブルの接続および取り外しを行ってください。

ケーブルの切り離し手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. 電源コードを電源コンセントから取り外します。
3. シグナル・ケーブルをコネクタから取り外します。
4. すべてのケーブルをデバイスから取り外します。

ケーブルの接続手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. すべてのケーブルをデバイスに接続します。
3. シグナル・ケーブルをコネクタに接続します。
4. 電源コードをコンセントに接続します。
5. デバイスの電源をオンにします。

(D005)

危険

IT ラック・システムやその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

- 重量のある装置の場合、取り扱いを誤ると身体傷害または設備の損傷を引き起こす可能性があります。
- ラック・キャビネットのレベル・パッドは必ず下げておきます。
- ラック・キャビネットには必ずスタビライザー・ブラケットを取り付けてください。
- 釣り合いがとれていない機械的荷重による危険な状態を避けるため、最も重いデバイスを常に、ラック・キャビネットの下部に取り付けます。必ず、サーバーおよびオプション・デバイスはラック・キャビネットの下部側から取り付けてください。
- ラック・マウント型デバイスを棚やワークスペースとして使用しないでください。ラック・マウント型デバイスの上には何も置かないでください。



- 各ラック・キャビネットには複数の電源コードが付いていることがあります。保守する際に電源を切断するように指図された場合、ラック・キャビネットのすべての電源コードを抜いてください。
- ラック・キャビネット内のすべてのデバイスは、同一ラック・キャビネットに取り付けられている電源デバイスに接続します。あるラック・キャビネットに取り付けられているデバイスの電源コードを、別のラック・キャビネットにある電源デバイスに接続しないでください。
- 正しく配線されていない電源コンセントは、システムまたはシステムに接続されたデバイスの金属部品に危険な電圧をかける可能性があります。感電を避けるためにコンセントが正しく配線および接地されていることの確認は、お客様の責任で行ってください。

注意

- ラック内部の温度が、すべてのラック・マウント型デバイスに対する製造者推奨の周辺温度を超えるようなラック内には、装置を取り付けしないでください。
- 空気の流れが妨げられているラック内には、装置を取り付けしないでください。装置内で空気の流れのために使用される装置のいずれかの側面、前面、または背面で、空気の流れが妨げられたり減速されたりしないようにしてください。
- 回路の過負荷によって電源配線や過電流保護が破損しないように、電源回路への機器の接続には十分注意してください。ラックに正しく電源を接続するには、ラック内の機器の定格ラベルで、電源回路の総消費電力を確認してください。
- (引き出し式ドロワーの場合。) ラック・スタビライザー・ブラケットがラックに取り付けられていない場合は、ドロワーまたはフィーチャーを引き出したり、取り付けたりしないでください。一度に複数のドロワーを引き出さないでください。一度に複数のドロワーを引き出すと、ラックが不安定になる可能性があります。
- (固定式ドロワーの場合。) このドロワーは固定ドロワーなので、製造元の指定がない限り、保守のために動かさないでください。ラックからドロワーの一部または全部を引き出そうとすると、ラックが不安定になったり、ドロワーがラックから落下する可能性があります。

(R001)

注意:

ラック・キャビネット内の上の方の位置からコンポーネントを取り外すと、再配置中のラックの安定性が改善されます。格納されたラック・キャビネットを部屋または建物内で再配置するときは必ず、以下の一般ガイドラインに従ってください。

- ラック・キャビネットの上部から順に装置を取り外すことにより、ラック・キャビネットの重量を減らします。可能な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。この構成がわからない場合は、以下の手順を実行する必要があります。
 - 32U 位置以上にあるすべてのデバイスを取り外します。
 - 最も重いデバイスがラック・キャビネットの下部に取り付けられていることを確認します。
 - ラック・キャビネット内で 32U レベルより下に取り付けられたデバイス間に空の U レベルがないことを確認します。
- 再配置しているラック・キャビネットが、一組のラック・キャビネットの一部である場合は、そのスイートからラック・キャビネットを切り離します。
- 通る予定の経路を検査して、障害になる可能性があるものを取り除きます。
- 選択する経路が、搭載されたラック・キャビネットの重量を支えることができるか検査します。搭載されたラック・キャビネットの重量については、ラック・キャビネットに付属の資料を参照してください。
- すべてのドアの開口部が少なくとも 760 x 230 mm 以上であることを確認します。
- すべてのデバイス、シェルフ、ドロワー、ドア、およびケーブルが安定していることを確認します。
- 4 つのレベル・パッドが最も高い位置に上がっていることを確認します。
- 移動時にスタビライザー・ブラケットがラック・キャビネットに取り付けられていないことを確認します。
- 傾斜が 10 度を超えるスロープは使用しないでください。
- ラック・キャビネットが新しい場所に置かれたら、次の手順を実行します。
 - 4 つのレベル・パッドを下げます。
 - スタビライザー・ブラケットをラック・キャビネットに取り付けます。
 - ラック・キャビネットからデバイスを取り外してあった場合は、ラック・キャビネットの最も低い位置から最も高い位置へと格納していきます。
- 長距離の移動が必要な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。ラック・キャビネットを元の梱包材、またはそれと同等のもので梱包します。また、レベル・パッドを下げて、キャスターをパレットから離れるように持ち上げ、ラック・キャビネットをパレットにボルトで止めます。

(R002)

(L001)



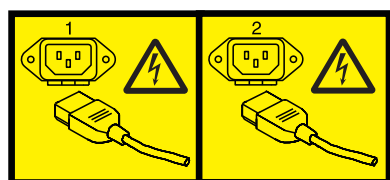
危険: このラベルが貼られているコンポーネントの内部には、危険な電圧、強い電流が流れています。このラベルが付いているカバーまたはバリアは開けないでください。(L001)

(L002)



危険: ラック・マウント型デバイスを棚やワークスペースとして使用しないでください。(L002)

(L003)



または



または



危険: 複数の電源コード。この製品は複数の電源コードを備えていることがあります。 危険な電圧をすべて除去するには、すべての電源コードを取り外してください。(L003)

(L007)



注意: 近くに高温になる部品が存在します。(L007)

(L008)



注意: 近くに危険な可動部品があります。(L008)

すべてのレーザーは、クラス 1 のレーザー製品について規定している米国の保健社会福祉省連邦規則 21 副章 J (DHHS 21 CFR Subchapter J) の要件に準拠していることが認証されています。米国以外の国では、レーザーは、クラス 1 レーザー製品として IEC 60825 に準拠していることが認証されています。レーザー認証番号および承認情報については、各部品のラベルをご覧ください。

注意:

この製品には、クラス 1 のレーザー製品である CD-ROM ドライブ、DVD-ROM ドライブ、DVD-RAM ドライブ、またはレーザー・モジュールの各デバイスのうち 1 つ以上が含まれていることがあります。次の情報に注意してください。

- カバーを外さないこと。カバーを取り外すと有害なレーザー光を浴びることがあります。この装置の内部には保守が可能な部品はありません。
- 本書に記述されている以外の手順、制御または調節を行うと有害な光線を浴びることがあります。

(C026)

注意:

データ処理環境には、クラス 1 のパワー・レベルより高いレベルで作動するレーザー・モジュールを備えるシステム・リンク上で伝送する装置が含まれることがあります。この理由から、光ファイバー・ケーブルの先端、またはコンセントの差込口を覗き込まないでください。(C027)

注意:

この製品には、クラス 1M のレーザーが含まれています。光学装置を用いて直接見ないでください。

(C028)

注意:

一部のレーザー製品には、クラス 3A またはクラス 3B のレーザー・ダイオードが組み込まれています。次の点に注意してください。カバーを開くとレーザー光線の照射があります。光線を見つめたり、光学装置を用いて直接見たり、光線を直接浴びることは避けてください。(C030)

注意:

このバッテリーにはリチウムが含まれています。爆発することがありますので、バッテリーを火中に入れたり、充電したりしないでください。

次の行為は絶対にしないでください。

- ____ 水に投げ込む、あるいは浸す
- ____ 100°C (華氏 212 度) を超える過熱
- ____ 修理または分解

IBM 承認の部品のみと交換してください。バッテリーのリサイクルまたは廃棄については、地方自治体の条例に従ってください。米国では、IBM がこのバッテリーの回収プロセスを設けています。詳しくは、1-800-426-4333 にお問い合わせください。お問い合わせの前に、このバッテリー・ユニットの IBM 部品番号をご用意ください。(C003)

NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE の電源および配線の情報

以下のコメントは、NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE 準拠として指定された IBM サーバーに適用されます。

装置は、以下での設置に適しています。

- ネットワーク通信設備
- NEC (National Electrical Code) が適用される場所

この装置のイントラビルディング・ポートは、イントラビルディングまたは屋外に露出していない配線またはケーブル接続にのみ適しています。この装置のイントラビルディング・ポートを OSP (屋外施設) やその配線に接続されているインターフェースの金属部と接続しないでください。これらのインターフェースは、イントラビルディング・インターフェース (GR-1089-CORE 記載のタイプ 2 ポートまたはタイプ 4 ポート) としてのみ使用するよう設計されており、屋外に露出した OSP 配線とは分離する必要があります。1 次保護装置を追加しても、これらのインターフェースと OSP 配線の金属部の接続を十分に保護することはできません。

注: すべてのイーサネット・ケーブルは、シールドされ、両端が接地されている必要があります。

AC 電源システムに、外部サージ保護装置 (SPD) を使用する必要はありません。

DC 電源システムは、分離 DC 帰還 (DC-I) 設計を採用しています。DC バッテリー帰還端子をシャーシまたはフレーム・アースに接続しないでください。

コントロール・パネル機能の管理

コントロール・パネル機能は、サーバーとの通信に使用します。コントロール・パネル機能は、状況（初期プログラム・ロード (IPL) など）を表示する機能からサービス技術員のみがアクセスできるサービス機能まで、複雑多岐にわたります。

コントロール・パネル機能の管理の新着情報

このトピック・コレクションの前回の更新以降に、コントロール・パネル機能の管理に追加または大幅に変更された情報は次のとおりです。

2014 年 10 月

- 以下の機能に関する情報が追加されました。
 - 21 ページの『機能 71: ネットワーク・ブートの活動化』
 - 22 ページの『機能 72: ネットワーク・ブートの無効化』
 - 22 ページの『機能 73: 出荷時リセット』

2014 年 6 月

- POWER8™ プロセッサを搭載した IBM Power Systems™ サーバーに関する情報を追加しました。

コントロール・パネルの概念

コントロール・パネルの機能、IPL モードと値、およびその他の概要について説明します。

物理コントロール・パネル

物理コントロール・パネルは、サーバーとの初期インターフェースです。物理コントロール・パネルを使用して、IPL、電源オン、および電源オフなどの機能を実行することができます。

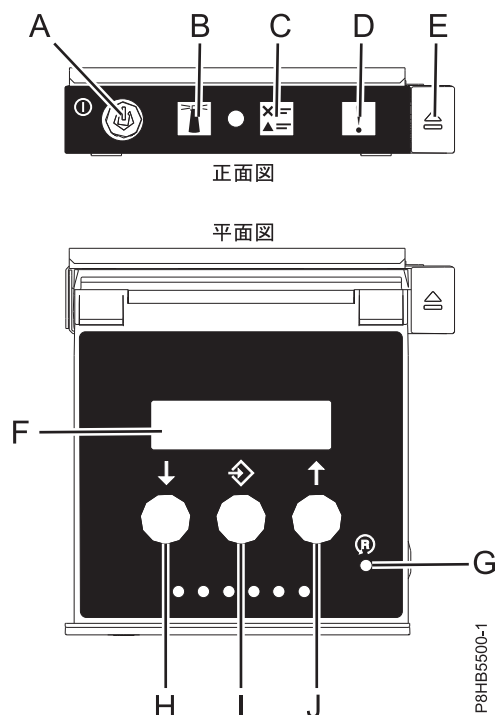


図 1. コントロール・パネル

- **A:** 「電源オン」 ボタン
 - 常時点灯しているライトは装置に完全なシステム電源が入っていることを示します。
 - ライトが明滅している場合、装置にスタンバイ電源が供給されていることを示します。
 - 電源オン・ボタンを押した後、電源 LED が明滅状態から点灯状態に移行するのに、約 30 秒かかります。移行期間は、LED がより高速で明滅する場合があります。
- **B:** エンクロージャー識別ライト
 - 常時点灯しているライトは部品を識別するために使用される識別状態を示します。
 - 消灯しているライトはシステムが正常に稼働していることを示します。
- **C:** チェック・ログ・ライト
 - 消灯しているライトはシステムが正常に稼働していることを示します。
 - 点灯している場合、システムがアテンションを必要としていることを示します。
- **D:** エンクロージャー障害ライト
 - 常時点灯している場合、システム装置に障害があることを示します。
 - 消灯しているライトはシステムが正常に稼働していることを示します。
- **E:** イジェクト・ボタン
- **F:** 機能/データ・ディスプレイ
- **G:** ピンホール・リセット (PHR) ・ボタン
- **H:** 減分ボタン
- **I:** Enter ボタン
- **J:** 増分ボタン

物理コントロール・パネルを使用したコントロール・パネル機能へのアクセス

コントロール・パネル機能はコントロール・パネルに記されている機能番号に対応しています。

コントロール・パネル機能を活動化するには、以下のようにします。

- 1. コントロール・パネルで増分 (↑) または減分 (↓) ボタンを押して、機能番号を選択します。
- 2. 機能を活動化するには、コントロール・パネルの Enter キーを押します。

物理コントロール・パネルを手動操作モードにする

一定の機能を選択または活動化するには、まず、物理コントロール・パネルを手動操作モードにします。

物理コントロール・パネルを手動操作モードにするには、以下のようにしてください。

- 1. 増分ボタンを使用して機能 02 にスクロールします。

0 2 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _
_ _ _ _ _ _ _ _ _ _

- 2. 機能 02 を開始するには Enter キーを押します。

- 3. Enter キーを再び押して、機能 02 メニュー上の 2 番目の文字に移動します。 次の例で示されるように、現行のシステム操作モードがポインターと共に表示されます。

0 2 _ _ B _ _ N < _ _ _ _ P _ _ _ _
_ _ _ _ _ _ _ _ _ _

- 4. 次の例で示すように、増分ボタンを使用してシステム操作モードをスクロールして、手動 M を選択します。

0 2 _ _ B _ _ M < _ _ _ _ P _ _ _ _
_ _ _ _ _ _ _ _ _ _

- 5. システム操作モードを選択するには Enter キーを押します。
- 6. 機能 02 を終了するには Enter キーを再び押します。

コントロール・パネルが手動操作モードになりました。

コントロール・パネル機能コード

コントロール・パネルに表示される、状況および機能オプションを示す機能コードについて説明します。

すべての機能を表示するには、コントロール・パネルを手動操作モードにします。 詳しくは、『物理コントロール・パネルを手動操作モードにする』を参照してください。

次の表には、基本およびお客様拡張のコントロール・パネル機能コードの説明が記載してあります。

表 1. 基本およびお客様拡張のコントロール・パネル (32 文字) 機能コード

機能コード	選択された機能
01	現行の IPL パラメーターを表示します。 この機能は、通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。
02	IPL タイプ、システム操作モード、およびファームウェア IPL モードを選択するために使用されます。この機能は、通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。

表 1. 基本およびお客様拡張のコントロール・パネル (32 文字) 機能コード (続き)

機能コード	選択された機能
03	選択された IPL パラメーターを使用してシステムの IPL を再始動します。この機能は手動操作モードで、かつシステム電源がオンである場合に限り使用可能です。
04	ランプ・テストを実行します。すべてのディスプレイおよびインジケーターが点灯します。この機能は、通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。
05 - 06	予約済み。
07	SPCN サービス機能を実行できます。この機能はパワーオン・スタンバイから、手動操作モードに限り使用可能です。
08	高速電源オフが行われることになります。この機能はシステムが手動操作モードで、かつシステム電源がオンである場合に限り使用可能です。
09 - 10	予約済み。
11	ASCII 文字 (16 進数以外の文字を含む) を最大 32 文字使用して、コントロール・パネルにシステム参照コード (SRC) を表示します。SRC が使用可能な場合、この機能は通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。
12	最大 4 個の拡張 SRC データ・ワードを使用して、コントロール・パネルに SRC を表示します。SRC が使用可能な場合、この機能は通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。
13	最大 8 個の拡張 SRC データ・ワードを使用して、コントロール・パネルに SRC を表示します。SRC が使用可能な場合、この機能は通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。
14 - 19	コールアウト・データを使用して、コントロール・パネルに SRC を表示します。SRC が使用可能な場合、これらの機能は通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。
20	マシン・タイプとモデル、VPD カード CCIN、および IPL タイプを表示します。この機能は、通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。
22	区画ダンプを強制実行します。ダンプについて詳しくは、『ダンプを実行する』を参照してください。この機能は手動操作モードで、かつオペレーティング・システムにより活動化された場合に限り使用可能です。
23 - 24	予約済み。
25 - 26	サービス・スイッチ 1 および 2 を使用して、機能 50 から 99 を使用可能または使用不可に設定します。これらの機能は手動操作モードに限り使用可能です。
27 - 29	予約済み。

表 1. 基本およびお客様拡張のコントロール・パネル (32 文字) 機能コード (続き)

機能コード	選択された機能
30	サービス・プロセッサ IP アドレスおよびポートの場所を表示します。この機能は手動操作モード、およびスタンバイに限り使用可能です。 注: IPv6 が表示された場合、サービス・プロセッサのネットワーク・ポートは IPv6 IP アドレスで構成されています。コントロール・パネルに文字が足りないため、完全なアドレスを表示することができません。
31 - 33	予約済み。
34	区画ダンプを再試行します。この機能は手動操作モードで、かつファームウェアにより活動化された場合に限り使用可能です。
35 - 40	予約済み。
41	非中断プラットフォーム・システム・ダンプを開始します。この機能は手動操作モードで、かつシステム・プロセッサにより活動化された場合に限り使用可能です。
42	プラットフォーム・ダンプを実行します。この機能は手動操作モードで、かつシステム・プロセッサにより活動化された場合に限り使用可能です。
43	サービス・プロセッサ・ダンプを実行します。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。
44 - 54	予約済み。
55	プラットフォーム・システム・ダンプ収集ポリシー、プラットフォーム・システム・ダンプ・ハードウェアの内容、およびプラットフォーム・システム・ダンプ・ファームウェアの内容の設定を表示または変更します。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。
56 - 62	システム・ファームウェア・レベル Ax710 で実行されているシステムでは予約済みです。
63	最大で最新の 25 のシステム状況 SRC を表示します。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。
64	最大で最新の 25 の診断状況 SRC を表示します。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。
65	リモート・サービス・セッションを非活動化します。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。
66	リモート・サービス・セッションを活動化します。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。
67	IOP ダンプおよびディスク装置 I/O のリセット/再ロードを開始します。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。
68	電源ドメインの電源をオフにして IOP および IOA の並行取り替えに影響を及ぼします。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。
69	電源ドメインの電源をオンにして IOP および IOA の並行取り替えに影響を及ぼします。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。

表 1. 基本およびお客様拡張のコントロール・パネル (32 文字) 機能コード (続き)

機能コード	選択された機能
70	IOP ダンプを開始します。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。
71	ネットワーク・ブートを活動化します。この機能は、PowerVM がハイパーバイザーであり、技術員 (CE) 機能の範囲が有効になっている場合に、手動操作モードでのみ使用可能です。
72	ネットワーク・ブートを無効にします。この機能は、PowerVM がハイパーバイザーであり、技術員 (CE) 機能の範囲が有効になっている場合に、手動操作モードでのみ使用可能です。
73	出荷時リセット。この機能は、プラットフォームが電源オフになっている場合にのみ使用可能です。この機能は、手動操作モードで、技術員 (CE) 機能の範囲が有効になっている場合にのみ使用可能です。
74 から 99	予約済み。

この表で機能コードが見つからない場合、この情報の作成時に、追加された機能またはデバイスが提供されていなかった可能性があります。コントロール・パネル上で、表示した機能コードに関する装置機能コードの補足情報を探してください。

関連タスク:

3 ページの『物理コントロール・パネルを手動操作モードにする』

一定の機能を選択または活動化するには、まず、物理コントロール・パネルを手動操作モードにします。

基本コントロール・パネル機能

基本コントロール・パネル機能は、選択された IPL タイプの表示、ファームウェア・モードの選択、または IPL の再始動を含みます。

機能 01: 選択した IPL タイプ、およびシステム操作モードの表示

この機能により、現在のシステム操作モード、次の IPL 用のファームウェア・モード、およびオペレーティング・システムの IPL モード (使用可能な場合) を表示できます。

この機能は、通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。

この機能は次の情報を表示します。

- オペレーティング・システム (OS) IPL タイプ (A、B、C、または D)。
- 有効なシステム操作モード (M または N)。
- ファームウェア・モード (P または T)。
- HMC インディケーター (1 または 0)
- ハイパーバイザー・タイプ (PVM (Power® Virtualization Manager) または OPAL (Open Power™ Abstraction Layer))

表 2. システムで OS IPL が使用可能になっていない場合の機能 01

機能/データ	アクションまたは説明
0 1 _	増分または減分のボタンを使用して機能 01 にスクロールします。

表 2. システムで OS IPL が使用可能になっていない場合の機能 01 (続き)

機能/データ	アクションまたは説明
0 1 _ A _ N _ _ _ _ PVM _ _ HMC=1 _ _ _ _ _ T _ _ _	有効な OS IPL モードは A、B、C、および D です。 有効なシステム操作モードは M および N です。 有効なハイパーバイザー・タイプは PVM および OPAL です。 有効なファームウェア IPL モードは P および T です。 HMC インジケータ: アクティブ (1)、非アクティブ (0)。
0 1 _	増分または減分のボタンを使用してコントロール・パネル機能をスクロールします。

機能 02: IPL タイプ、システム操作モード、およびファームウェア・モードの選択

システム・ファームウェア・レベル Ax710 で実行されているシステムでは、システムが電源オンまたは電源オフのいずれの場合も、この機能を使用して IPL タイプおよび論理キー・モードを選択できます。

この機能は、通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。

システムが電源オンの場合、機能 02 は、オペレーティング・システム (OS) IPL タイプ、システム操作モード、またはファームウェア IPL モードを選択するために使用されます。以下の表では、電源オンのシステムで、機能 02 IPL タイプ、システム操作モード、およびファームウェア IPL モードを選択する手順の例が示されています。

表 3. 機能 02: 電源オンされたシステムで IPL タイプ、システム操作モード、およびファームウェア IPL モードを選択

機能/データ	アクションまたは説明
0 2 _	増分または減分のボタンを使用して機能 02 にスクロールします。
0 2 _ A < _ M _ _ _ _ P _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	機能 02 を開始するには Enter キーを押します。 • 現行の OS IPL タイプがポインターと共に表示されます。 • 現行のシステム操作モードが表示されます。 • 現行のファームウェア・モードが表示されます。
0 2 _ B < _ M _ _ _ _ P _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して OS IPL タイプをスクロールします。
0 2 _ B _ M < _ _ _ _ P _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	OS IPL タイプを選択するには Enter キーを押します。 • 現行の OS IPL タイプが表示されます。 • 現行のシステム操作モードがポインターと共に表示されます。 • 現行のファームウェア・モードが表示されます。
0 2 _ B _ N < _ _ _ _ P _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用してシステム操作モードをスクロールします。

表 3. 機能 02: 電源オンされたシステムで IPL タイプ、システム操作モード、およびファームウェア IPL モードを選択 (続き)

機能/データ	アクションまたは説明
0 2 _ _ B _ _ N _ _ _ _ _ P < _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	システム操作モードを選択するには Enter キーを押します。 • 現行の OS IPL タイプが表示されます。 • 現行のシステム操作モードが表示されます。 • 現行のファームウェア・モードがポインターと共に表示されます。
0 2 _ _ B _ _ N _ _ _ _ _ T < _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用してファームウェア IPL モードをスクロールします。
0 2 _	Enter キーを押してファームウェア IPL モードを選択し、機能 02 を終了します。
0 1 _	増分または減分のボタンを使用してコントロール・パネル機能をスクロールします。

システムが電源オフの場合、機能 02 は、OS IPL タイプ、システム操作モード、およびファームウェア IPL モードを選択するために使用されます。以下の表では、電源オフのシステムで、機能 02 OS IPL タイプ、システム操作モード、およびファームウェア IPL モードを選択する手順の例が示されています。

表 4. 機能 02: 電源オフされたシステムで IPL タイプ、システム操作モード、およびファームウェア IPL モードを選択

機能/データ	アクションまたは説明
0 2 _	増分または減分のボタンを使用して機能 02 にスクロールします。
0 2 _ _ A < _ M _ _ _ _ _ T _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	機能 02 を開始するには Enter キーを押します。 • 現行の OS IPL タイプがポインターと共に表示されます。 • 現行のシステム操作モードが表示されます。 • 現行のファームウェア IPL モードが表示されます。
0 2 _ _ B < _ M _ _ _ _ _ T _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して OS IPL タイプをスクロールします。
0 2 _ _ B _ _ M < _ _ _ _ _ T _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	IPL タイプを選択するには Enter キーを押します。 • 現行の IPL タイプが表示されます。 • 現行のシステム操作モードがポインターと共に表示されます。 • 現行のファームウェア IPL モードが表示されます。
0 2 _ _ B _ _ N < _ _ _ _ _ T _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用してシステム操作モードをスクロールします。
0 2 _ _ B _ _ N _ _ _ _ _ T _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	システム操作モードを選択するには Enter キーを押します。 • 現行の IPL タイプが表示されます。 • 現行のシステム操作モードが表示されます。 • 現行のファームウェア IPL モードが表示されます。
0 2 _ _ B _ _ N _ _ _ _ _ P < _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用してファームウェア IPL モードをスクロールします。
0 2 _	Enter キーを押してファームウェア IPL モードを選択し、機能 02 を終了します。

表 4. 機能 02: 電源オフされたシステムで IPL タイプ、システム操作モード、およびファームウェア IPL モードを選択 (続き)

機能/データ	アクションまたは説明
0 1 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用してコントロール・パネル機能をスクロールします。

システム・ファームウェア・レベル Ax720 以降で実行されているシステムでは、この機能を使用してオペレーティング・システム IPL タイプ、システム操作モード、およびファームウェア IPL モードを選択できます。

表 5. 機能 02: IPL タイプ、システム操作モード、およびファームウェア IPL モードの選択

機能/データ	アクションまたは説明
0 2 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して機能 02 にスクロールします。
0 2 _ _ A < _ M _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ P _ _ _ _ _	機能 02 を開始するには Enter キーを押します。 • 現行のオペレーティング・システム IPL タイプがポインターと共に表示されます。 • 現行のシステム操作モードが表示されます。 • 現行のファームウェア・モードが表示されます。
0 2 _ _ B < _ M _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ P _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用してオペレーティング・システム IPL タイプをスクロールします。
0 2 _ _ B _ _ M < _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ P _ _ _ _ _	オペレーティング・システム IPL タイプを選択するには Enter キーを押します。 • 現行のオペレーティング・システム IPL タイプが表示されます。 • 現行のシステム操作モードがポインターと共に表示されます。 • 現行のファームウェア・モードが表示されます。
0 2 _ _ B _ _ N < _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ P _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用してシステム操作モードをスクロールします。
0 2 _ _ B _ _ N _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ P < _ _ _ _ _	システム操作モードを選択するには Enter キーを押します。 • 現行のオペレーティング・システム IPL タイプが表示されます。 • 現行のシステム操作モードが表示されます。 • 現行のファームウェア・モードがポインターと共に表示されます。
0 2 _ _ B _ _ N _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ T < _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用してファームウェア IPL モードをスクロールします。
0 2 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押してファームウェア IPL モードを選択し、機能 02 を終了します。
0 1 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用してコントロール・パネル機能をスクロールします。

機能 03: IPL の再始動

この機能は、選択された IPL パラメーターを使用してシステムの IPL を再始動します。

この機能は手動操作モードで、かつシステム電源がオンである場合に限り使用可能です。

機能 03 を選択して Enter キーを押すと、アクション確認 SRC (A1008003) が表示されます。「IPL オペレーションを再始動」を実行する場合は、再度機能 03 を選択し、Enter キーを押してください。

IPL を再始動する前に通知する必要はありません。

機能 04: ランプ・テスト

この機能は、正常に機能していないコントロール・パネル・インジケーターがあるかどうかを示します。また、コントロール・パネルの機能/データ・ディスプレイに表示される文字が有効かどうかを示します。

この機能は、通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。

ランプ・テストが開始されると、中央電子処理装置 (CEC) および拡張装置内のファームウェア制御インジケーターが 4 分間点灯した後、前の状態に戻ります。

以下の手順を使用して、システム・コントロール・パネルのライトが正常に作動しているかどうかを検査します。

1. システムを電源オンします。
2. コントロール・パネルで増分 (↑) または減分 (↓) ボタンを押して、機能 04 を表示します。

コントロール・パネルで Enter キーを押します。

3. システム・コントロール・パネルにあるすべてのライトとインジケーターがオンになりますか？

はい	いいえ
↓	障害のある LED インジケーターが付いている FRU を交換します。例えば、ファン上の LED がオンにならない場合は、ファンを交換します。

4. 拡張装置のコントロール・パネルのすべてのライトがオンになりますか？

注: 拡張装置のコントロール・パネルのライトは、機能 04 に入ってから約 25 秒だけ点灯します。

はい	いいえ
システム・コントロール・パネルのライトは正常に作動しています。	拡張装置のコントロール・パネルを交換します。

機能 05 から 06 予約済み

この機能は予約済みです。

機能 07: SPCN 機能

この機能を使用して、SPCN (System Power Control Network) 操作を実行できます。

この機能はパワーオン・スタンバイから、手動操作モードに限り使用可能です。

注:

- ID を表示するシステムは、AC 電源が供給された状態で電源オフする必要があります。
- システムに電源を復元した直後の場合は、サービス・プロセッサをスタンバイ状態に戻す必要があります。その後、コントロール・パネル機能が正常に作動します。サービス・プロセッサをスタンバイ・モードに戻すのは、パネルが操作可能な表示になってから数分後 です。
- コントロール・パネルを手動操作モードにして、機能 07 のオプションにアクセスする必要があります。

機能 07 によって制御されている SPCN 操作を実行するには、次のようにします。

1. 機能 07 を選択し、Enter キーを押します。07** が表示されます。
2. 実行する機能を選択します (表 6 を参照)。増分または減分ボタン (↑↓) を使用して、該当する機能にスクロールします。Enter キーを押して、07nn00 を表示します。ここで、nn は選択した機能です。

表 6. 機能 07 の SPCN 機能

機能	説明	参照箇所
A1	電源オン・コマンドをブロードキャストします。	ステップ 5 に進みます。
A6	すべての入出力エンクロージャのフレーム・アドレスを表示します。	ステップ 5 に進みます。
A8	選択したフレームの SPCN 構成 ID 番号を表示します。	07A8 が表示されます。 ステップ 3 に進みます。
A9	選択したフレームの SPCN 構成 ID を設定します。	07A9 が表示されます。 ステップ 4 に進みます。

3. ステップ 2 で機能 A8 を選択した場合、次のステップを実行して入出力エンクロージャの構成を表示します。
 - a. 増分 (↑) ボタンまたは減分 (↓) ボタンを使用して、入出力エンクロージャのフレーム・アドレスの先頭の 2 文字を選択し、Enter キーを押します。 07nn00 が表示されます。ここで nn はフレーム・アドレスの最初のバイトです。
 - b. 増分 (↑) ボタンまたは減分 (↓) ボタンを使用して、入出力エンクロージャのフレーム・アドレスの次の 2 文字を選択し、Enter キーを押します。 07nn00 が選択した入出力エンクロージャに表示されます。ここで nn は、フレーム・アドレスの 2 番目のバイトです。

注:

- アドレッシングされた入出力エンクロージャの表示が明滅しています。
- 構成 ID は最下行の最後の 2 文字です。

4. ステップ 2 で機能 A9 を選択した場合、次のステップを実行して選択した入出力エンクロージャの構成を設定します。
 - a. 選択した入出力エンクロージャのシステム電源が待機モードであることを確認します。選択した入出力エンクロージャのシステム電源が待機モードでない場合、電源をオフします。次に、ステップ 1 に戻ります。
 - b. 増分 (↑) ボタンまたは減分 (↓) ボタンを使用して構成する入出力エンクロージャのフレーム・アドレスの最初の 2 文字を選択し、Enter キーを押します。 07nn00 が表示されます。ここで nn は装置アドレスの最初のバイトです。
 - c. 増分 (↑) ボタンまたは減分 (↓) ボタンを使用して、入出力エンクロージャのフレーム・アドレスの次の 2 文字を選択し、Enter キーを押します。 07nn00 が表示されます。ここで nn はフレーム・アドレスの 2 番目のバイトです。

注: アドレッシングされた入出力エンクロージャーの表示が明滅しています。

- d. 増分 (↑) ボタンまたは減分 (↓) ボタンを使用して適切な構成 ID を選択します。07nn が表示されます。ここで nn は構成 ID です。
 - e. Enter キーを押します。07nn00 が表示されます。20 秒から 30 秒後、アドレッシングされた入出力エンクロージャーの表示の明滅が止まり、通常の表示フォーマットに戻ります。
5. 増分 (↑) ボタンまたは減分 (↓) ボタンを使用して 07** までスクロールし、Enter キーを押します。このようにすると、コントロール・パネルが通常表示に戻ります。

機能 08: 高速電源オフ

この機能により、システムが中断状態のときに、システムを電源オフできます。この機能はシステムが手動操作モードで、かつシステム電源がオンである場合に限り使用可能です。

機能 08 を選択して Enter キーを押すと、アクション確認 SRC (A1008008) が表示されます。高速電源オフ (FPO) を実行する場合は、再度機能 08 を選択し、Enter キーを押してください。高速電源オフの後、システムはデフォルト表示に戻ります。

注: この機能は、データを失う原因になる可能性があるため、システムのシャットダウンをオペレーティング・システムから実行できる場合は、使用しないでください。

注: 最新の IPL でシステム・パスワードを変更した場合、高速電源オフを実行すると新規パスワード情報が失われる原因になります。

機能 09 から 10: 予約済み

これらの機能は予約済みです。

機能 11: SRC 表示 (ASCII 文字列)

この機能は、最大 32 個の ASCII 文字 (16 進数以外の文字を含む) を使用して、コントロール・パネルにシステム参照コード (SRC) を表示します。その文字数によっては、それだけで表示域がいっぱいになる場合があります。この機能は、ハードウェアまたはオペレーティング・システムの問題の原因を判別する上で役立つ診断を支援するために機能します。

この機能は、デフォルトの SRC 表示で、SRC が使用可能な場合、通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。

機能 11 は使用可能な場合、SRC のワードを表します。

エラー報告のために SRC 情報を記録します。詳しくは、『コントロール・パネルを使用して、参照コードおよびシステム情報を収集する』を参照してください。

関連情報:

 コントロール・パネルを使用した参照コードおよびシステム情報の収集

機能 12 SRC 表示 (16 進ワード 2 - 5)

この機能は、システム参照コード (SRC) をコントロール・パネルに表示し、ハードウェアまたはオペレーティング・システムの問題の原因判別に役立つ診断を支援するために機能します。

SRC が使用可能な場合、この機能は通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。

拡張 SRC データ・ワードは SRC 内の番号に応じて表示されます。拡張 SRC データ・ワードは一度に 4 ワード表示されます。拡張 SRC データ・ワードがある場合、機能 12 はスクロール可能です。未使用ワードは、表示が必要な場合ブランクで表示されます。

エラー報告のために SRC 情報を記録します。詳しくは、『コントロール・パネルを使用して、参照コードおよびシステム情報を収集する』を参照してください。

機能 13: SRC 表示 (16 進ワード 6 - 9)

この機能は、システム参照コード (SRC) をコントロール・パネルに表示し、ハードウェアまたはオペレーティング・システムの問題の原因判別に役立つ診断を支援するために機能します。

SRC が使用可能な場合、この機能は通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。

拡張 SRC データ・ワードは SRC 内の番号に応じて表示されます。拡張 SRC データ・ワードは一度に 4 ワード表示されます。拡張 SRC データ・ワードの数が小さく 1 つから 4 つまでの場合、機能 13 はスクロール可能になりません。拡張 SRC データ・ワードの数が 5 つから 8 つまでの場合、機能 13 はスクロール可能です。未使用ワードは、表示が必要な場合ブランクで表示されます。

エラー報告のために SRC 情報を記録します。詳しくは、『コントロール・パネルを使用して、参照コードおよびシステム情報を収集する』を参照してください。.

関連情報:

 コントロール・パネルを使用した参照コードおよびシステム情報の収集

機能 14 から 19 まで: SRC 表示 (コールアウト)

これらの機能は、システム参照コード (SRC) をコントロール・パネルに表示し、ハードウェアまたはオペレーティング・システムの問題の原因判別に役立つ診断を支援するために機能します。

SRC が使用可能な場合、これらの機能は通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。

機能 14 から 19 までは使用可能な場合、現場交換可能ユニット (FRU) およびプロシージャ・コールアウト・データを表示します。このデータは、拡張 SRC データ・ワードがあれば後に付けて表示されます。複数 FRU およびプロシージャ・コールアウト・データ・エントリーは、各 SRC に含まれている場合があります。1 つの FRU またはプロシージャ・コールアウト・データ・エントリーは、各機能番号に対して表示されます。機能 14 から 19 までを使用して、最大 6 つの異なる FRU またはプロシージャ・コールアウト・データ・エントリーをコントロール・パネルに表示できます。

次の表に機能 14 FRU コールアウト表示選択順序の例を示します。

表 7. 機能 14: FRU コールアウト表示選択順序

機能/データ	アクションまたは説明
1 4 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して機能 14 にスクロールします。
H _ -PARTNUM_ CCIN_ _ U970305010ABCDE- _ _ _	Enter キーを押して機能 14 を選択します。FRU コールアウト・データが表示されます。
1 4 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter を押すと、機能表示とデータ表示が切り替わります。

次の表に機能 15 プロシージャ・コールアウト表示選択順序の例を示します。

表 8. 機能 15: プロシージャ・コールアウト表示選択順序

機能/データ	アクションまたは説明
1 5 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して機能 15 にスクロールします。
M_ -FSPSP04_ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して機能 15 を選択します。プロシージャ・コールアウト・データが表示されます。
1 5 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter を押すと、機能表示とデータ表示が切り替わります。

エラー報告のために SRC 情報を記録します。

関連情報:

 コントロール・パネルを使用した参照コードおよびシステム情報の収集

機能 20: システム・タイプ、モデル、フィーチャー・コード、および IPL タイプ

この機能は、マシン・タイプとモデル、重要プロダクト・データ (VPD) カードのカスタム・カード識別番号 (CCIN)、および IPL タイプを表示します。この機能は、通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。

マシン・タイプ、モデル、 VPD カードの CCIN、および IPL タイプは、次の形式で表示されます。

```
p p p p - m m m _ _ _ _ c c c c
T T T T T T T T t t t t t t t t
```

その値は次のように表されます。

- *p* の値はマシン・タイプを示します。
- *m* の値はマシン・モデルを示します。
- *c* の値はシステム VPD カードの CCIN を示します。
- *T* の値は CEC IPL タイプを示します。
- *t* の値は FSP IPL タイプを示します。

この情報はシステム参照コード (SRC) と共に記録します。

この機能を選択しても活動化されない場合、コマンドはリジェクトされます。

お客様拡張のパネル機能

お客様拡張パネルの機能は、区画ダンプ、サービス・プロセッサ IP アドレス、およびポートの場所を含みます。

機能 21: サービス・ツールの開始

System i® モデルでは、この機能は、システム・コンソール・ディスプレイで専用保守ツール (DST) を使用可能にします。 System p® サーバーには適用されません。

この機能は手動操作モードで、かつオペレーティング・システムにより活動化された場合に限り使用可能です。

「専用保守ツール (DST) の使用」画面が基本または代替コンソールに表示されます。

DST を終了してオペレーティング・システムに戻るには、「専用保守ツール (DST) の使用」表示で「オペレーティング・システム表示の再開 (Resume operating system display)」オプションを選択します。

機能 22: 区画ダンプ

この機能は、論理区画内のオペレーティング・システム・データのダンプを開始します。

この機能は手動操作モードで、かつオペレーティング・システムにより活動化された場合に限り使用可能です。

区画ダンプを開始するには、2 つの連続した機能 22 の選択を実行する必要があります。以下の表に、機能 22 の例を示します。

表 9. 機能 22: 区画ダンプの開始

機能/データ	アクションまたは説明
2 2 _	増分または減分のボタンを使用して機能 22 にスクロールします。
2 2 _ _ _ _ 0 0 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して機能 22 を開始します。
A 1 0 0 3 0 2 2 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	区画ダンプ検査のシステム参照コード (SRC) を表示します。
2 2 _	増分または減分のボタンを使用して機能 22 にスクロールします。
2 2 _ _ _ _ 0 0 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して機能 22 を開始します。

機能 23 から 24: 予約済み

これらの機能は予約済みです。

機能 25 - 26: サービス・スイッチ 1 および 2

これらの機能は、サービス機能の範囲 (50 から 99) を設定するために使用されます。これらの機能は手動操作モードに限り使用可能です。

サービス機能範囲 (50 から 99) を設定するには、機能 25 を使用してサービス技術員スイッチ 1 を設定し、次に、機能 26 を使用してサービス技術員スイッチ 2 を設定します。

機能 27 から 29: 予約済み

これらの機能は予約済みです。

機能 30: サービス・プロセッサの IP アドレスおよびポートの場所

この機能は、サービス・プロセッサ IP アドレスおよびポートの場所を表示します。この機能はパワーオン・スタンバイから、手動操作モードに限り使用可能です。

注: コントロール・パネルに IPv6 が表示された場合、サービス・プロセッサのネットワーク・ポートは IPv6 IP アドレスで構成されています。コントロール・パネルに文字が足りないため、完全なアドレスを表示することができません。

以下の表に機能 30 の例を示します。

表 10. 機能 30: サービス・プロセッサの IP アドレスおよびポートの場所

機能/データ	アクションまたは説明
3 0 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して機能 30 にスクロールします。
3 0 * * _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して、副次機能モードに入ります。
3 0 0 0 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して IP アドレスを選択します。 00 = SP A: ETH0 (1 次エンクロージャー) 01 = SP A: ETH1 (1 次エンクロージャー) 02 = SP B: ETH0 (2 次エンクロージャー) 03 = SP B: ETH1 (2 次エンクロージャー)
S P A : E T H 0 : _ _ _ T 5 9 . 5 . 1 0 5 . 2 4 3 _ _ _ _ _	選択した IP アドレスを表示するには、Enter キーを押します。
3 0 * * _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して、副次機能出口を選択します。
3 0 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して、副次機能モードを終了します。

機能 31 から 33: 予約済み

これらの機能は予約済みです。

機能 34: 区画ダンプの再試行

この機能は、論理区画内のオペレーティング・システム・データのダンプを再試行を開始します。この機能は手動操作モードで、かつファームウェアにより活動化された場合に限り使用可能です。

機能 35 から 40: 予約済み

これらの機能は予約済みです。

機能 41: 非中断プラットフォーム・システム・ダンプ

この機能は、非中断プラットフォーム・システム・ダンプを開始します。この機能は手動操作モードで、かつサービス・プロセッサにより活動化された場合にのみ使用可能です。

機能 41 は、IBM POWER® Hypervisor™ 主ストレージ・データのダンプを取るために使用できます。以下の表に、機能 41 の例を示します。

表 11. 機能 41: プラットフォーム・ダンプの開始

機能/データ	アクションまたは説明
4 1 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して機能 41 にスクロールします。

表 11. 機能 41: プラットフォーム・ダンプの開始 (続き)

機能/データ	アクションまたは説明
4 1 _ _ _ _ 0 0 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して機能 42 を開始します。
A 1 0 0 3 0 4 1 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	確認 SRC を表示します。
4 1 _	増分または減分のボタンを使用して機能 42 にスクロールします。
4 1 _ _ _ _ 0 0 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して機能 42 を開始します。

機能 42: プラットフォーム・システム・ダンプ

この機能は、プラットフォーム・システム・ダンプを開始します。この機能は手動操作モードで、かつサービス・プロセッサにより活動化された場合にのみ使用可能です。

機能 42 は、IBM POWER Hypervisor™ 主ストレージおよびハードウェア・データのダンプを取るために使用できます。プラットフォーム・システム・ダンプを開始するには、2 つの連続した機能 42 の選択を実行する必要があります。以下の表に、機能 42 の例を示します。

表 12. 機能 42: プラットフォーム・システム・ダンプの開始

機能/データ	アクションまたは説明
4 2 _	増分または減分のボタンを使用して機能 42 にスクロールします。
4 2 _ _ _ _ 0 0 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して機能 42 を開始します。
A 1 0 0 3 0 4 2 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	確認 SRC を表示します。
4 2 _	増分または減分のボタンを使用して機能 42 にスクロールします。
4 2 _ _ _ _ 0 0 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して機能 42 を開始します。

機能 43: サービス・プロセッサ・ダンプ

この機能は、サービス・プロセッサ・ダンプを開始します。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。

サービス・プロセッサ・ダンプを開始するには、2 つの連続した機能 43 の選択を実行する必要があります。以下の表に機能 43 の例を示します。

表 13. 機能 43: サービス・プロセッサ・ダンプの開始

機能/データ	アクションまたは説明
4 3 _	増分または減分のボタンを使用して機能 43 にスクロールします。
4 3 0 0 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して確認します。

表 13. 機能 43: サービス・プロセッサ・ダンプの開始 (続き)

機能/データ	アクションまたは説明
A 1 0 0 3 0 4 3 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	確認システム参照コード (SRC) を表示します。
4 3 _	増分または減分のボタンを使用して機能 43 にスクロールします。
4 3 0 0 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して確認します。

機能 44 から 54: 予約済み

これらの機能は予約済みです。

機能 55: プラットフォーム・システム・ダンプ・データの表示および変更

この機能によって、プラットフォーム・ダンプ・データを表示および変更できます。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。

機能 55 を選択して Enter を押すと、プラットフォーム・システム・ダンプ収集ポリシー、プラットフォーム・システム・ダンプ・ハードウェアの内容、およびプラットフォーム・システム・ダンプ・ファームウェアの内容の設定を表示および変更できます。

次の表にプラットフォーム・システム・ダンプ・データを表示する方法の例を示します。

表 14. 機能 55: プラットフォーム・システム・ダンプ・データの表示

機能/データ	アクションまたは説明
5 5 _	増分または減分のボタンを使用して機能 55 にスクロールします。
5 5 * * _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して、副次機能モードに入ります。
5 5 0 0 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して、プラットフォーム・システム・ダンプ変数を表示します。
5 5 0 0 _ xxyyzz _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して、選択した副次機能进行处理します。 xx = 収集ポリシー yy = ハードウェアの内容 zz = ファームウェアの内容
5 5 * * _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して、副次機能出口を選択します。
5 5 _	Enter キーを押して、副次機能モードを終了します。

次の表にプラットフォーム・システム・ダンプ・データを変更する方法の例を示します。

表 15. 機能 55: プラットフォーム・システム・ダンプ・データの変更

機能/データ	アクションまたは説明
5 5 _	増分または減分のボタンを使用して機能 55 にスクロールします。

表 15. 機能 55: プラットフォーム・システム・ダンプ・データの変更 (続き)

機能/データ	アクションまたは説明
5 5 * * _	Enter キーを押して、副次機能モードに入ります。
5 5 0 2 _	増分または減分のボタンを使用して、プラットフォーム・システム・ダンプ変数の変更を選択します。 01 = プラットフォーム・システム・ダンプ収集ポリシーを <i>disable</i> に設定 02 = プラットフォーム・システム・ダンプ収集ポリシーを <i>enable</i> に設定 03 = 適用外 - 選択すると常に行 1 に FF を表示 04 = プラットフォーム・システム・ダンプ・ハードウェアの内容を <i>maximum</i> に設定 05 = プラットフォーム・システム・ダンプ・ハードウェアの内容を <i>automatic</i> に設定 06 = 適用外 - 選択すると常に行 1 に FF を表示 07 = 適用外 - 選択すると常に行 1 に FF を表示 08 = プラットフォーム・システム・ダンプ・ファームウェアの内容を <i>automatic</i> に設定 09 = プラットフォーム・システム・ダンプ・ファームウェアの内容を <i>maximum</i> に設定 0A = プラットフォーム・システム・ダンプ・ファームウェアの内容を <i>physical I/O</i> に設定 0B = プラットフォーム・システム・ダンプ・ファームウェアの内容を <i>virtual I/O</i> に設定 0C = プラットフォーム・システム・ダンプ・ファームウェアの内容を <i>HPS cluster</i> に設定 0D = プラットフォーム・システム・ダンプ・ファームウェアの内容を <i>Host Channel Adapter (HCA)</i> に設定
5 5 0 2 _ 0 0 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して、選択した副次機能を処理します。 00 = Accept FF = Reject
5 5 * * _	増分または減分のボタンを使用して、副次機能出口を選択します。
5 5 _	Enter キーを押して、副次機能モードを終了します。

機能 56 から 62: 予約済み

システム・ファームウェア・レベル Ax810 を実行しているシステムでは、機能 56 から 62 は予約済みです。

機能 63: システム状況 SRC の表示

機能 63 を選択して Enter を押すと、最新のシステム状況 SRC を最高 25 まで表示できます。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。

次の表に最新の 25 個のシステム状況 SRC を表示する方法の例を示します。

表 16. 機能 63: システム状況 SRC の表示

機能/データ	アクションまたは説明
6 3 _	増分または減分のボタンを使用して機能 63 にスクロールします。
6 3 * * _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して、副次機能モードに入ります。
6 3 1 8 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分ボタンを使用してアドレス・オフセットを選択します。 注: 00 から 18 までの副次機能を入力して SRC を順次表示します。最新の SRC は、取り得る最も大きな副次機能番号 (18) で表示されます。システム状況 SRC が存在しない場合は、使用可能な副次機能は 00 のみとなり、これを選択しても SRC は表示されません。
C 1 0 0 1 0 3 4 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter を押して SRC データを読み取ります。
6 3 * * _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して、副次機能出口を選択します。
6 3 _	Enter キーを押して、副次機能モードを終了します。

機能 64: 診断状況 SRC の表示

機能 64 を選択して Enter を押すと、最新の診断状況 SRC を最高 25 まで表示できます。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。

次の表に診断状況 SRC を表示する方法の例を示します。

表 17. 機能 63: 診断状況 SRC の表示

機能/データ	アクションまたは説明
6 4 _	増分または減分のボタンを使用して機能 64 にスクロールします。
6 4 * * _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して、副次機能モードに入ります。
6 4 0 2 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分ボタンを使用してアドレス・オフセットを選択します。 注: 00 から 18 までの副次機能を入力して SRC を順次表示します。最新の SRC は、取り得る最も大きな副次機能番号 (18) で表示されます。診断状況 SRC が存在しない場合は、使用可能な副次機能は 00 のみとなり、これを選択しても SRC は表示されません。
D 1 2 3 4 5 6 7 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter を押して SRC データを読み取ります。
6 4 * * _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して、副次機能出口を選択します。
6 4 _	Enter キーを押して、副次機能モードを終了します。

機能 65: リモート・サービスの非活動化

この機能は、リモート・サービス・セッションを非活動化するために使用します。

この機能は手動操作モードで、かつ OS により活動化された場合に限り使用可能です。

機能 66: リモート・サービスの活動化

この機能は、リモート・サービス・セッションを活動化するために使用します。

この機能は手動操作モードで、かつオペレーティング・システムにより活動化された場合に限り使用可能です。

機能 67: ディスク装置 IOP のリセット/再ロード

この機能は、IOP ダンプおよびディスク装置 I/O のリセット/再ロードを開始するために使用します。

この機能は手動操作モードで、かつ OS により活動化された場合に限り使用可能です。この機能は、表示された SRC の IOP がリセット/再ロード機能をサポートする場合に限り使用可能です。

機能 68: 並行保守 – 電源オフ

この機能は、電源ドメインの電源をオフにして IOP および IOA の並行取り替えに影響を及ぼすために使用します。

この機能は手動操作モードで、かつ OS により活動化された場合に限り使用可能です。

機能 69: 並行保守 – 電源オン

この機能は、電源ドメインの電源をオンにして IOP および IOA の並行取り替えを変更するために使用します。

この機能は手動操作モードで、かつ OS により活動化された場合に限り使用可能です。

機能 70: IOP ダンプ

この機能は、IOP ダンプを開始するために使用します。この機能は手動操作モードで、かつ OS により活動化された場合に限り使用可能です。

この機能は手動操作モードで、かつ OS により活動化された場合に限り使用可能です。

機能 71: ネットワーク・ブートの活動化

機能 71 を有効にすると、システムは、次の初期プログラム・ロード (IPL) 時の最初の区画のネットワーク・ブートを実行しようとします。ブートは、周辺構成要素相互接続 (PCI) のディスカバリー順に基づいて、ディスカバリーされた最初の 5 つのネットワーク・デバイスの 1 つを使用して発生します。システムに、定義された区画がまったくない場合、ネットワーク・ブートは失敗します。ネットワーク・ブートの活動化機能は、システムが電源オフになっているか、または稼働しているときに有効にすることができます。この機能は、PowerVM がハイパーバイザーの場合で、しかもお客様拡張 (CE) 機能の範囲が有効になっている場合に、手動操作モードでのみ使用可能です。

以下の表は、ネットワーク・ブートの活動化方法の例を示しています。

表 18. 機能 71: ネットワーク・ブートの活動化

機能/データ	アクションまたは説明
7 1 _	増分または減分のボタンを使用して機能 71 にスクロールします。
7 1 _ _ _ _ 00 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押します。

機能 72: ネットワーク・ブートの無効化

機能 72 を使用すると、機能 71 を使用して活動化されたネットワーク・ブート機能を無効にすることができます。ネットワーク・ブートの無効化機能は、システムが電源オフになっているか、または稼働しているときに有効にすることができます。ただし、この機能が有効になるのは次のブート時で、システムが PowerVM モードの場合です。ブート時に、プラットフォームは正常に初期化されます。この機能は、PowerVM がハイパーバイザーの場合で、しかもお客様拡張 (CE) 機能の範囲が有効になっている場合に、手動操作モードでのみ使用可能です。

以下の表は、ネットワーク・ブートを無効化する方法の例を示しています。

表 19. 機能 72: ネットワーク・ブートの無効化

機能/データ	アクションまたは説明
7 2 _	増分または減分のボタンを使用して機能 72 にスクロールします。
7 2 _ _ _ _ 00 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押します。

機能 73: 出荷時リセット

機能 73 は、サーバー・ファームウェアおよびサービス・プロセッサ・ファームウェアの設定の完全リセットを開始して、システム全体の構成を出荷時のデフォルト設定に戻します。区画、ネットワーク設定、およびその他の重要なカスタマー設定に関する情報がすべてリセットされると、サービス・プロセッサがリブートされます。この機能は、プラットフォームが電源オフになっている場合にのみ使用可能です。この機能は、手動操作モードであり、お客様拡張 (CE) 機能の範囲が有効になっている場合にのみ使用可能です。

以下の表は、出荷時リセットの実装方法の例を示しています。

表 20. 機能 73: 出荷時リセット

機能/データ	アクションまたは説明
7 3 _	増分または減分のボタンを使用して機能 73 にスクロールします。
A 1 7 0 8 0 0 B _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押し、出荷時リセットを確認して続行します。
7 3 _	再度Enter キーを押して、出荷時リセットを開始します。

機能 74 から 99: 予約済み

これらの機能は予約済みです。

IPL タイプおよびシステム操作モードの値

コントロール・パネルの機能で使用する有効な初期プログラム・ロード (IPL) タイプ、システム操作モード、ファームウェア IPL、およびハイパーバイザー・タイプを説明します。

以下の表は、IPL タイプの有効な値と、それぞれの説明を示しています。

注: オペレーティング・システム IPL タイプは、オペレーティング・システム IPL モードがオペレーティング・システムから使用可能にされている場合にのみ表示されます。

表 21. オペレーティング・システム IPL タイプ

初期プログラム・ロード (IPL) タイプ	アクションまたは説明
A	システムのライセンス内部コードのコピー A を使用してディスクから IPL を実行します。
B	システムのライセンス内部コードのコピー B を使用してディスクから IPL を実行します。
C	ハードウェア・サービスの使用専用に予約済みです。 重要: この機能を誤って使用すると重大なデータ損失が発生する場合があります。
D	ロード・ソース・ディスク以外のメディアから IPL を実行します。コード・インストールをサポートするための代替 IPL です。

以下の表は、操作モードの有効値を示しています。

表 22. システム操作モード値

システム操作モード	アクションまたは説明
手動 (M)	有人 IPL を実行できるようになり、コントロール・パネルの制限された機能にアクセスできます。
通常 (N)	無人 IPL を実行できるようになります。

以下の表は、ファームウェア IPL タイプの有効値を示しています。

表 23. ファームウェア IPL タイプ

IPL タイプ	アクションまたは説明
P	システムのライセンス内部コードのコピー P を使用してディスクから IPL を実行します。
T	システムのライセンス内部コードのコピー T を使用してディスクから IPL を実行します。

以下の表は、ハイパーバイザー・タイプの有効値を示しています。

表 24. ハイパーバイザー・タイプ

ハイパーバイザー・タイプ	アクションまたは説明
PVM	Power Virtualization Manager
OPAL	Open Power Abstraction Layer

Flexible Service Processor (FSP) のブート失敗サポート

FSP のブート失敗サポートについて説明します。

ブートの失敗後、FSP はスタンバイ・ステージになります。STANDBY 状態になった後で、FSP が少なくとも 15 分間作動しない場合、オペレーター・パネルに SRC B1817212 が表示されます。15 分の間に FSP が連続的にリセットを実行する場合、4 回目のリセット (15 分以内) の途中で FSP ブート処理は終了します。この状態中に、オペレーション・パネルは電源ボタンをピンホール・リセット・ボタンとして構成し、ピンホール・リセット・ボタンを含む残りのボタンは使用不可になります。

表 25. FSP のブート失敗サポート

データ	アクションまたは説明
B1817212_ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _01	SRC B1817212 は、ブートの失敗を意味し、カウントに続いてシステム参照コード (SRC) により障害が起きる前のパルス・カウントの数が示されます。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。この資料は IBM から他の言語で入手できる場合があります。ただし、その資料にアクセスするには、その言語の製品または製品バージョンを所有していなければならない場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権（特許出願中のものを含む）を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

本書に示されている図や仕様は、IBM の書面による許可を得ずにその一部または全部を複製してはなりません。

IBM は、示されている特定のマシンを対象として本書を作成しています。その他の使用および使用結果については、IBM は何ら保証責任を負いません。

IBM のコンピューター・システムには、破壊または損失したデータが検出されない危険性を減少するために設計されたメカニズムが含まれています。しかし、この危険性をゼロにすることはできません。不意の停電によるシステムの休止やシステム障害、電力の変動または停電、もしくはコンポーネント障害を経験するユーザーは、停電または障害が起きた時刻もしくはその近辺で行われたシステム操作とセーブまたは転送されたデータの正確性を検証する必要があります。さらに、ユーザーはそのような不安定で危機的な状況で操作されたデータを信頼する前に、独自のデータ検証手順を確立する必要があります。ユーザーはシステムおよび関連ソフトウェアに適用できる更新情報または修正がないか、定期的に IBM の Web サイトをチェックする必要があります。

通信規制の注記

This product may not be certified in your country for connection by any means whatsoever to interfaces of public telecommunications networks. Further certification may be required by law prior to making any such connection. Contact an IBM representative or reseller for any questions.

本製品は、電気通信事業者の通信回線との責任分界点への、直接的な接続を想定した認定取得作業を行っていません。そのような接続を行うには、電気通信事業者による事前検査等が必要となる場合があります。ご不明な点については、IBM 担当員または販売代理店にお問い合わせください。

プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie をはじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらのCookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

この「ソフトウェア・オファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』（<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>）の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』（<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>）を参照してください。

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名は、IBM または各社の商標です。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml の「Copyright and trademark information」をご覧ください。

電波障害規制特記事項

モニターを装置に取り付ける場合は、モニターと一緒に提供された指定のモニター・ケーブルおよび電波障害抑制装置を使用してください。

VCCI クラス A 情報技術装置

以下のクラス A ステートメントは、POWER8 プロセッサを搭載した IBM サーバーおよびそのフィーチャーに適用されます。ただし、フィーチャー情報で電磁適合性 (EMC) クラス B として指定されている場合は除きます。

Federal Communications Commission (FCC) statement

Note: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at his own expense.

Properly shielded and grounded cables and connectors must be used in order to meet FCC emission limits. IBM is not responsible for any radio or television interference caused by using other than recommended cables and connectors or by unauthorized changes or modifications to this equipment. Unauthorized changes or modifications could void the user's authority to operate the equipment.

This device complies with Part 15 of the FCC rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Industry Canada Compliance Statement

This Class A digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

Avis de conformité à la réglementation d'Industrie Canada

Cet appareil numérique de la classe A est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

European Community Compliance Statement

This product is in conformity with the protection requirements of EU Council Directive 2004/108/EC on the approximation of the laws of the Member States relating to electromagnetic compatibility. IBM cannot accept responsibility for any failure to satisfy the protection requirements resulting from a non-recommended modification of the product, including the fitting of non-IBM option cards.

This product has been tested and found to comply with the limits for Class A Information Technology Equipment according to European Standard EN 55022. The limits for Class A equipment were derived for commercial and industrial environments to provide reasonable protection against interference with licensed communication equipment.

European Community contact:

IBM Deutschland GmbH

Technical Regulations, Department M372

IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany

Tele: +49 (0) 800 225 5423 or +49 (0) 180 331 3233

email: halloibm@de.ibm.com

Warning: This is a Class A product. In a domestic environment, this product may cause radio interference, in which case the user may be required to take adequate measures.

VCCI Statement - Japan

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

The following is a summary of the VCCI Japanese statement in the box above:

This is a Class A product based on the standard of the VCCI Council. If this equipment is used in a domestic environment, radio interference may occur, in which case, the user may be required to take corrective actions.

Japanese Electronics and Information Technology Industries Association (JEITA) Confirmed Harmonics Guideline (products less than or equal to 20 A per phase)

高調波ガイドライン適合品

Japanese Electronics and Information Technology Industries Association (JEITA) Confirmed Harmonics Guideline with Modifications (products greater than 20 A per phase)

高調波ガイドライン準用品

Electromagnetic Interference (EMI) Statement - People's Republic of China

声 明

此为 A 级产品,在生活环境中,该产品可能会造成无线电干扰。在这种情况下,可能需要用户对其干扰采取切实可行的措施。

Declaration: This is a Class A product. In a domestic environment this product may cause radio interference in which case the user may need to perform practical action.

Electromagnetic Interference (EMI) Statement - Taiwan

警告使用者：

這是甲類的資訊產品，在居住的環境中使用時，可能會造成射頻干擾，在這種情況下，使用者會被要求採取某些適當的對策。

The following is a summary of the EMI Taiwan statement above.

Warning: This is a Class A product. In a domestic environment this product may cause radio interference in which case the user will be required to take adequate measures.

IBM Taiwan Contact Information:

台灣IBM 產品服務聯絡方式：
台灣國際商業機器股份有限公司
台北市松仁路7號3樓
電話：0800-016-888

Electromagnetic Interference (EMI) Statement - Korea

이 기기는 업무용(A급)으로 전자파적합기기로서 판매자 또는 사용자는 이 점을 주의하시기 바라며, 가정외의 지역에서 사용하는 것을 목적으로 합니다.

Germany Compliance Statement

Deutschsprachiger EU Hinweis: Hinweis für Geräte der Klasse A EU-Richtlinie zur Elektromagnetischen Verträglichkeit

Dieses Produkt entspricht den Schutzanforderungen der EU-Richtlinie 2004/108/EG zur Angleichung der Rechtsvorschriften über die elektromagnetische Verträglichkeit in den EU-Mitgliedsstaaten und hält die Grenzwerte der EN 55022 Klasse A ein.

Um dieses sicherzustellen, sind die Geräte wie in den Handbüchern beschrieben zu installieren und zu betreiben. Des Weiteren dürfen auch nur von der IBM empfohlene Kabel angeschlossen werden. IBM übernimmt keine Verantwortung für die Einhaltung der Schutzanforderungen, wenn das Produkt ohne Zustimmung von IBM verändert bzw. wenn Erweiterungskomponenten von Fremdherstellern ohne Empfehlung von IBM gesteckt/eingebaut werden.

EN 55022 Klasse A Geräte müssen mit folgendem Warnhinweis versehen werden:

"Warnung: Dieses ist eine Einrichtung der Klasse A. Diese Einrichtung kann im Wohnbereich Funk-Störungen verursachen; in diesem Fall kann vom Betreiber verlangt werden, angemessene Maßnahmen zu ergreifen und dafür aufzukommen."

Deutschland: Einhaltung des Gesetzes über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten

Dieses Produkt entspricht dem "Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG)". Dies ist die Umsetzung der EU-Richtlinie 2004/108/EG in der Bundesrepublik Deutschland.

Zulassungsbescheinigung laut dem Deutschen Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG) (bzw. der EMC EG Richtlinie 2004/108/EG) für Geräte der Klasse A

Dieses Gerät ist berechtigt, in Übereinstimmung mit dem Deutschen EMVG das EG-Konformitätszeichen - CE - zu führen.

Verantwortlich für die Einhaltung der EMV Vorschriften ist der Hersteller:
International Business Machines Corp.
New Orchard Road
Armonk, New York 10504
Tel: 914-499-1900

Der verantwortliche Ansprechpartner des Herstellers in der EU ist:
IBM Deutschland GmbH
Technical Regulations, Abteilung M372
IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany
Tel: +49 (0) 800 225 5423 or +49 (0) 180 331 3233
email: halloibm@de.ibm.com

Generelle Informationen:

Das Gerät erfüllt die Schutzanforderungen nach EN 55024 und EN 55022 Klasse A.

Electromagnetic Interference (EMI) Statement - Russia

ВНИМАНИЕ! Настоящее изделие относится к классу А.
В жилых помещениях оно может создавать
радиопомехи, для снижения которых необходимы
дополнительные меры

VCCI クラス B 情報技術装置

以下のクラス B ステートメントは、フィーチャー取り付け情報で電磁適合性 (EMC) クラス B として指定されているフィーチャーに適用されます。

Federal Communications Commission (FCC) statement

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation.

This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.

If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult an IBM-authorized dealer or service representative for help.

Properly shielded and grounded cables and connectors must be used in order to meet FCC emission limits. Proper cables and connectors are available from IBM-authorized dealers. IBM is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized changes or modifications to this equipment. Unauthorized changes or modifications could void the user's authority to operate this equipment.

This device complies with Part 15 of the FCC rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Industry Canada Compliance Statement

This Class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

Avis de conformité à la réglementation d'Industrie Canada

Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

European Community Compliance Statement

This product is in conformity with the protection requirements of EU Council Directive 2004/108/EC on the approximation of the laws of the Member States relating to electromagnetic compatibility. IBM cannot accept responsibility for any failure to satisfy the protection requirements resulting from a non-recommended modification of the product, including the fitting of non-IBM option cards.

This product has been tested and found to comply with the limits for Class B Information Technology Equipment according to European Standard EN 55022. The limits for Class B equipment were derived for typical residential environments to provide reasonable protection against interference with licensed communication equipment.

European Community contact:

IBM Deutschland GmbH

Technical Regulations, Department M372

IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany

Tele: +49 (0) 800 225 5423 or +49 (0) 180 331 3233

email: halloibm@de.ibm.com

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

Japanese Electronics and Information Technology Industries Association (JEITA) Confirmed Harmonics Guideline (products less than or equal to 20 A per phase)

高調波ガイドライン適合品

Japanese Electronics and Information Technology Industries Association (JEITA) Confirmed Harmonics Guideline with Modifications (products greater than 20 A per phase)

高調波ガイドライン準用品

IBM Taiwan Contact Information

台灣IBM 產品服務聯絡方式：
台灣國際商業機器股份有限公司
台北市松仁路7號3樓
電話：0800-016-888

Electromagnetic Interference (EMI) Statement - Korea

이 기기는 가정용(B급)으로 전자파적합기기로서 주로 가정에서 사용하는 것을 목적으로 하며, 모든 지역에서 사용할 수 있습니다.

Germany Compliance Statement

Deutschsprachiger EU Hinweis: Hinweis für Geräte der Klasse B EU-Richtlinie zur Elektromagnetischen Verträglichkeit

Dieses Produkt entspricht den Schutzanforderungen der EU-Richtlinie 2004/108/EG zur Angleichung der Rechtsvorschriften über die elektromagnetische Verträglichkeit in den EU-Mitgliedsstaaten und hält die Grenzwerte der EN 55022 Klasse B ein.

Um dieses sicherzustellen, sind die Geräte wie in den Handbüchern beschrieben zu installieren und zu betreiben. Des Weiteren dürfen auch nur von der IBM empfohlene Kabel angeschlossen werden. IBM übernimmt keine Verantwortung für die Einhaltung der Schutzanforderungen, wenn das Produkt ohne Zustimmung von IBM verändert bzw. wenn Erweiterungskomponenten von Fremdherstellern ohne Empfehlung von IBM gesteckt/eingebaut werden.

Deutschland: Einhaltung des Gesetzes über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten

Dieses Produkt entspricht dem “Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG)“. Dies ist die Umsetzung der EU-Richtlinie 2004/108/EG in der Bundesrepublik Deutschland.

Zulassungsbescheinigung laut dem Deutschen Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG) (bzw. der EMC EG Richtlinie 2004/108/EG) für Geräte der Klasse B

Dieses Gerät ist berechtigt, in Übereinstimmung mit dem Deutschen EMVG das EG-Konformitätszeichen - CE - zu führen.

Verantwortlich für die Einhaltung der EMV Vorschriften ist der Hersteller:

International Business Machines Corp.

New Orchard Road

Armonk, New York 10504

Tel: 914-499-1900

Der verantwortliche Ansprechpartner des Herstellers in der EU ist:

IBM Deutschland GmbH

Technical Regulations, Abteilung M372

IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany

Tel: +49 (0) 800 225 5423 or +49 (0) 180 331 3233

email: halloibm@de.ibm.com

Generelle Informationen:

Das Gerät erfüllt die Schutzanforderungen nach EN 55024 und EN 55022 Klasse B.

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用可能性: これらの条件は、IBM Web サイトのすべてのご利用条件に追加されるものです。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾を得ずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾を得ずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示したりすることはできません。

権利: ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての

明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。



Printed in Japan